

# こうざき海岸 豆知識



1

こうざき海岸は「来ル島海岸」,「摩介(マジメ)海岸」と呼ばれていました。

その海岸や海が、大分県が進める大分新産業都市建設2期計画の8号地埋め立てで、50年度消滅の危機に直面しました。佐賀関漁民とこうざき地区民の10年間の反対運動と産業構造や経済情勢の変化が相まって、こうざきの海や海岸は奇跡的に残りました。

2

こうざき海岸は別府湾の他の海岸と違って、白と黒の小石が多い海岸です。そのため波が立っても濁りにくいという特徴を持っています。最近はその長所がなくなってきたのが心配です。

3

こうざき海岸沿いの潮の流れは、干満によって東へ西へと交互に流れていますが、恒常的には東(佐賀関)から西(大分)へ流れているようで、そのためありがたいことに、新鮮できれいな豊後水道の海水が流入しやすく、こうざき海域の水質を良好にしてくれているのです。

4

そしてその恒常的な潮のながれが、佐賀関半島山間部から流れ出した白石や黒石の小石が多い海岸を作っているのです。裏返せば大野川からの粒の小さい砂が少なく、ヘドロが堆積しにくい海岸という長所を形成しました。

5

また、東から西への潮の流れは馬場までの砂州を形成し、小猫川はその砂州に妨げられて磯崎で海に流れ出ていました。今から150年くらい前でしょうか、台風時に小猫川が氾濫し、今の河口ができたそうです。だから新しく切れた河口だから「新切れ」という地名ができました。

6

以上説明しましたように、長い年月をかけてこうざき海岸は形成されてきました。また1年の中でも変化があるのです。春先から東風(こち)が吹くと、海岸の砂は東から西へ移動します。

ところが秋口から冬にかけて北風が西から東に砂をもどしてくれて、こうざき海岸の砂浜は安定するのです。

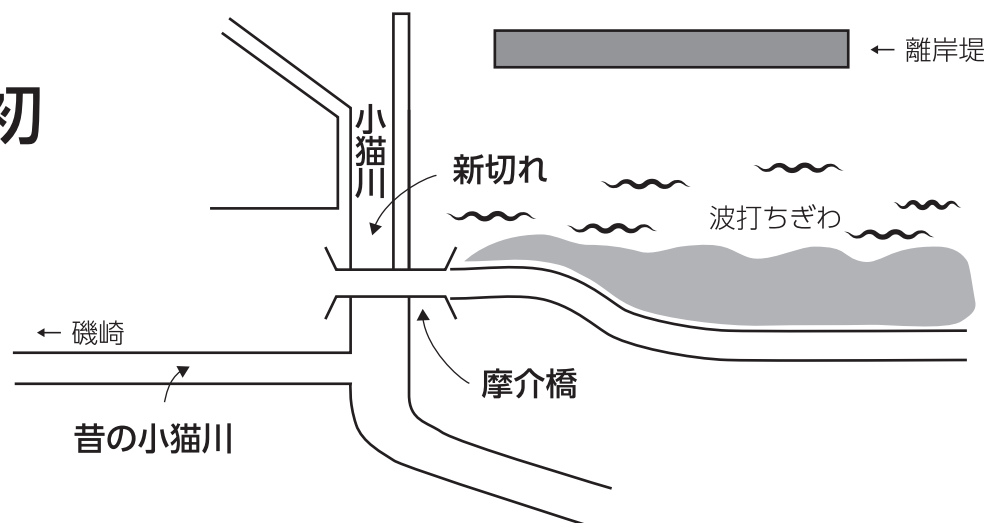
7

ところが1970年後半に、浚渫工法による埋め立てで7号埋立地が造成されたため、北西の季節風による西からの砂の補給が止まり、こうざき海岸の東側はやせ細るようになり、東から西に移動する砂は、神崎漁港や小猫川河口に堆積するようになりました。

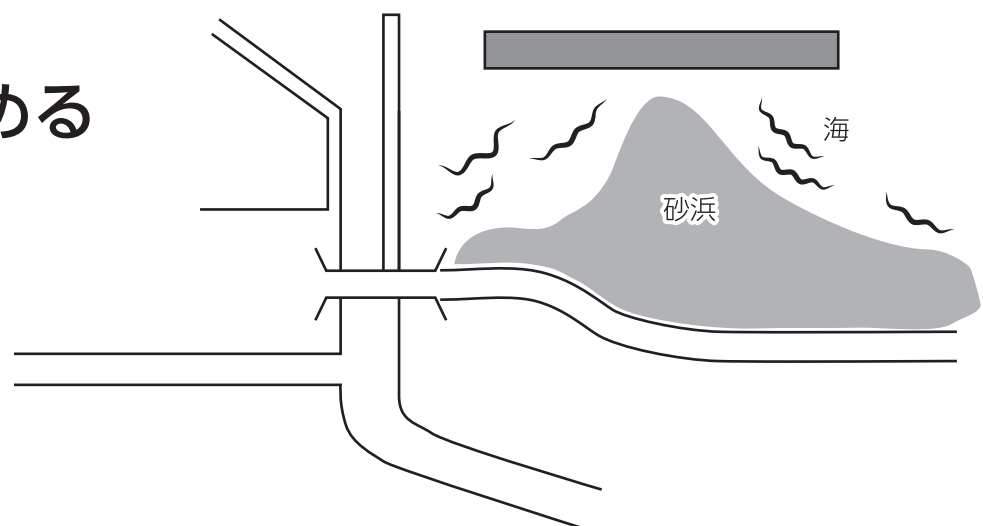
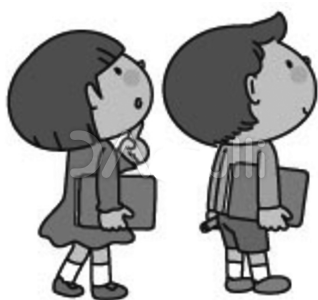
8

次第にやせ細るこうざき海岸に危機感を持ち、小猫川河口右岸に100mの離岸堤を設置するよう大分県に要望、実現しました。西暦2000年頃のことです。当時建設費は1m100万円だと説明を受けました。公共事業抑制の今日、要望しても実現しなかったでしょう。誠に幸運でした。しかし、こんにち教尊寺下から瀬戸下の海岸がやせ細るのを止めることはできていません。直接打ち寄せる波で崖が侵食され続けているのを解決できてないのです。また、地球温暖化で海水面が上がったら、さらに深刻な事態が予測されます。

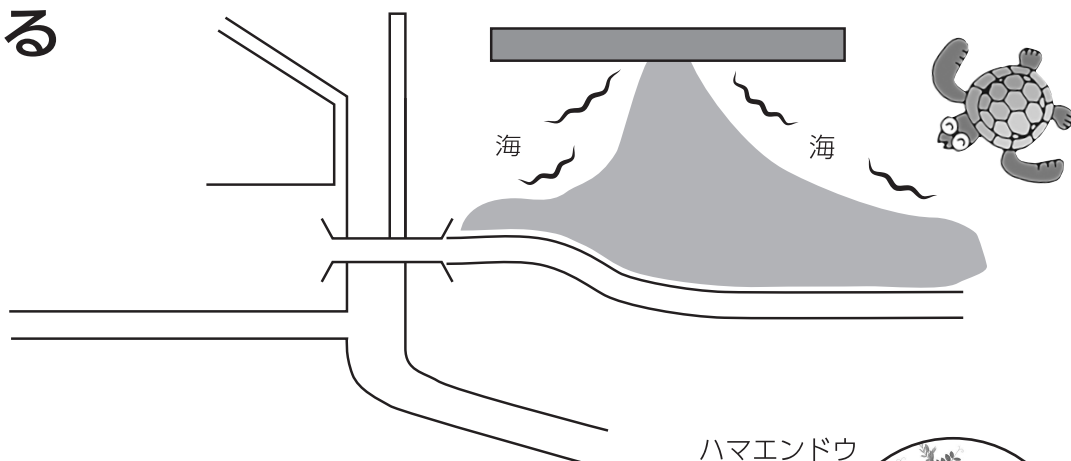
## 1 離岸堤ができた当初



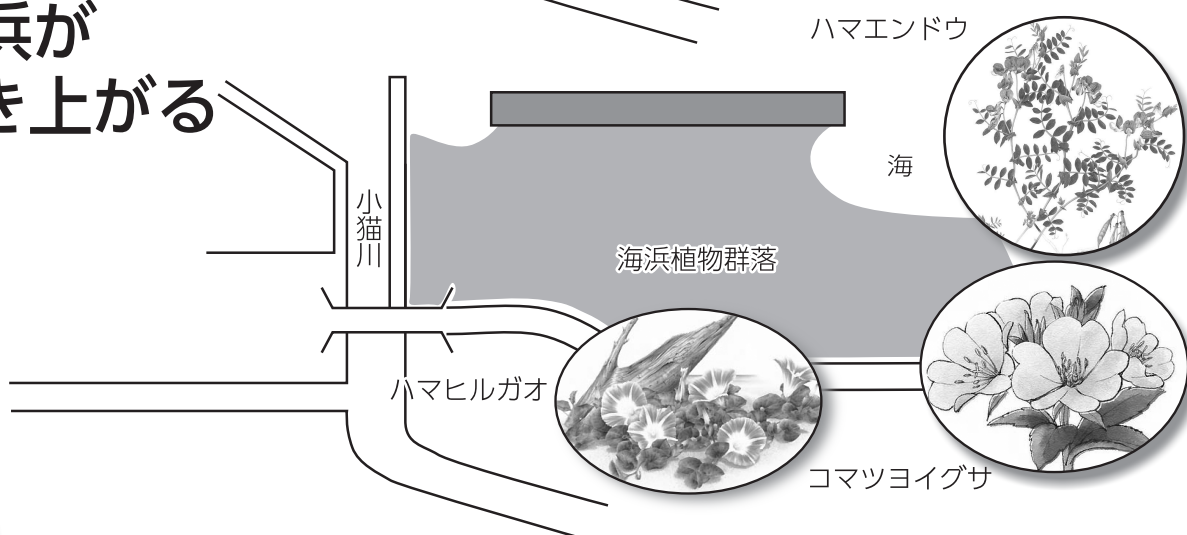
## 2 砂レキが集まり始める



### 3 つながる



### 4 砂浜が でき上がる



9

さて、離岸堤が設置された西暦2000年ころの波打ち際は、想像できないでしょうが橋のたもとでした。

ところが砂浜は瞬くうちに離岸堤とつながり、年々太ってきました。そして2005年くらいから海浜植物の群落が発達したのです。

当時ピンクのハマヒルガオ、黄色のコマツヨイグサ、紫のハマエンドウが花盛りでした。また、春になるとひばりが巣づくりするようになりました。

10

2015年頃になると、海水浴場の砂浜は2倍の広さとなり、水深も浅くなり安全な水泳場ができあがりました。そして、広くなった砂浜にはハマゴウの群落が広がり、夏季に円錐状の青紫色の花を鑑賞することができます。また、「ウミガメが帰る森」をつくるため毎年2月に50本のクロマツを、広くなった砂浜に、地域の小学生や海岸清掃の皆さんと植樹しています。また、ハマユウの苗を育てて、移植してくださる方もいます。今日、いろんな方がこうざき海岸に思いを寄せて集ってくれるようになりました。

見てきたように自然は環境とともに変化します。これからも多くの人が集まり、楽しみ、憩い、そして活動し、自然環境について発信する場所に、こうざき自然海浜公園を育てていきましょう。